

前期の科目終了時アンケート結果は[コチラ](#)から参照ください

科目コード 10704

授業科目名	担当教員名	履修区分	配当年次	開講期	単位	DP対応
実践 コミュニケーション入門 (旧:コミュニケーション基礎)	西田 弘次	G:選 D:選	1	秋	2	3,5,6
科目概要						
円滑な対人関係を築くためのコミュニケーションに関する基本的な概念・モデル・スキルを確認及び学習し、日常生活や仕事において実際に使えるようにするための実践トレーニングを行う。						

	必須	推奨
事前学習科目		
事後学習科目		

学びの目的とゴール
本科目の目的は、「分かる」から『出来る』へ、です。 円滑で心地好い対人関係を築くためには、コミュニケーションに関する様々な知識を「分かっている・知っている（知識）」だけでは、効果は期待できません。それらを適切に『出来る（能力）』ようにしてこそ効果が発揮されます。 コミュニケーションは古（いにしえ）からずっと行ってきたものですから多くの教えがあります。よって、それらの教えを確認すると共に、コミュニケーション学で提唱されている実践に役立つ基本的なものを学習していきます。 『出来る』ようになるためには、実践が欠かせません。そこで毎回、日々の生活を通して取り組める実践トレーニングの課題を用意しています。（各々の能力に応じて行ってもらいますから、決して困難なものはありません。ご安心を！） 最終的なゴールは、『出来る』から【やっている】に繋げることです。本授業を受講すれば、一時的には『出来る』ようになるでしょう。しかし、より良い人間関係やより豊かな人生に結びつけるためには、本授業が終了した後にどれだけ【やっている】に繋げるかです。この気付きを得て継続することがゴールです。本科目をお薦めする方は、 - これから社会人となる方 - 基本的な対人コミュニケーション能力を身につけたい方 - 改めて自身のコミュニケーションスタイルを見直したい方 です。 「入門」ですので全て基本的な内容ですが、基本を蔑ろにしようまくいくものは何一つありません。 本科目から基本の大切さを改めて感じてもらえることでしょう。 なお、対人（リアル）での能力向上を前提としていますので、デジタル（ネット）関係に直結する内容は扱いません。 以上のことを踏まえ、今のご自身に照らし合わせた上で受講をご判断くだされば幸いです。

評価の観点	評価割合	評価の方法
-------	------	-------

平常点	80%	ー受講認証(必須) ※第1～15回講義の視聴(受講認証)は全て必須 (未視聴講義がある場合は単位修得不可) ーディスカッション課題の提出状況 60点(4点×15回) ーディスカッション課題の内容、課題以外のディスカッションでのクラスへの貢献 20点
試験	20%	ー最終レポートの提出および内容 20点 ※最終試験の提出は必須(未提出の場合は単位習得不可)

※評価方法と配点の詳細は、このシラバス末尾にある、別紙「成績評価について」を参照してください

担当教員からのフィードバック方法
・AirCampusでのディスカッション ・最終試験に対するフィードバック講義(個人別のコメント)

教科書	なし
参考図書	『西田式・心トレ ～コミュニケーションの専門家が考えた心の鍛え方～』 【著】西田弘次 東洋経済新報社 『中高生のためのコミュ力UPガイド』 【著】西田弘次 実践コミュニケーション研究所 https://nishida-koji.com/books.html

教員紹介
西田 弘次(にしだ こうじ) 先生 実践コミュニケーション研究所 所長・代表 亜細亜大学客員教授 ビジネス・ブレイクスルー大学 客員教授 1965年福岡県生まれ。在南アフリカ共和国日本国総領事館員、亜細亜大学職員を経て、オックスフォード大学大学院修了。帰国後、千葉大学専任教員として12年間教鞭を執る中、アナログコミュニケーション力の急速な低下に危機感を抱き、実践コミュニケーション研究所を設立。以来、小学生～社会人の次世代を対象とし、全国各地で講演・研修・トレーニング等を実施。総受講者数は9万4千人を超える。 公式ウェブサイト： https://nishida-koji.com

回数	学習内容	学習課題
1	授業オリエンテーション	●授業内容の説明と評価について ●自己チェックシートの記入 ●課題:エアキャンパスにて自己紹介
2	トレーニング方法	●トレーニングとは ●継続の秘訣

		● 課題:リマインダーとトレーニング相手の設定及びエアキャンパスへの発言
3	受信力 ～「聞く」から『聴く』へ～ Ⅰ:基本トレーニング	● 「聞く」と『聴く』の違い ● 話を聴く基本 ● 課題:基本の実践及びエアキャンパスへの発言
4	受信力 ～「聞く」から『聴く』へ～ Ⅱ:傾聴トレーニング	● 傾聴力を高める方法 ● 課題:学習した内容の実践及びエアキャンパスへの発言
5	受信力 ～「聞く」から『聴く』へ～ Ⅲ:共感トレーニング	● 共感力を高める方法 ● 課題:学習した内容の実践及びエアキャンパスへの発言
6	受信力 ～「聞く」から『聴く』へ～ Ⅳ:質問トレーニング	● 質問力を高める方法 ● 課題:学習した内容の実践及びエアキャンパスへの発言
7	発信力 ～「伝える」から『伝わる』へ～ Ⅰ:基本トレーニング	● 「伝える」と『伝わる』の違い ● 話が伝わる基本 ● 課題:基本の実践と宿題及びエアキャンパスへの発言
8	発信力 ～「伝える」から『伝わる』へ～ Ⅱ:話し方トレーニング	● 『伝わる』話し方の基本 ● 課題:学習した内容の実践及びエアキャンパスへの発言
9	発信力 ～「伝える」から『伝わる』へ～ Ⅲ:自己表現トレーニング	● 自分の意見が心地よく伝わる方法 ● 課題:学習した内容の実践及びエアキャンパスへの発言 ● 自己チェックシートの再評価
10	個人内コミュニケーション力 Ⅰ:個人内コミュニケーションとは何か?	● 『個人内コミュニケーション』講義 ● 課題:講義の感想をエアキャンパスへ発言
11	個人内コミュニケーション力 Ⅱ:自己対話の認識と文章力トレーニング	● 自分の感情を捉える ● 課題:学習した内容の実践及びエアキャンパスへの発言
12	個人内コミュニケーション力 Ⅲ:原因理解トレーニング	● 不快な感情の原因を理解する ● 課題:学習した内容の実践及びエアキャンパスへの発言
13	個人内コミュニケーション力 Ⅳ:身体コントロール	● 快に繋がる身体づくり ● 課題:学習した内容の実践及びエアキャンパスへの発言
14	個人内コミュニケーション力 Ⅴ:頭コントロール	● 不快から脱する捉え方 ● 課題:学習した内容の実践及びエアキャンパスへの発言
15	個人内コミュニケーション力 Ⅵ:言葉コントロール 最終レポートについて	● 言葉が持つ潜在能力 ● 最終レポートについて ● 課題:学習した内容の実践及びエアキャンパスへの発言

※開講や課題出題のスケジュールは、別途配布している配信スケジュールを確認してください。

第1回から第15回までのすべての講義において受講認証をクリアしなければ、自動的に不合格となります。また、最終レポートが提出されない場合も、自動的に不合格となります。
講義に関する発言・質問は積極的に行ってください。
※単位認定には、顔認証による本人確認が必要です。

※評価方法と配点の詳細は、別紙「成績評価について」を参照してください

※シラバスは変更する可能性があります

【別紙】成績評価について

第1回講義の中で、再度解説いただきますが、履修を選択する前にもご確認ください。

1. 講義の受講について

受講認証(出席)100%を求めます。

第1回から第15回までのすべての授業を視聴(受講認証)しなければ、自動的に不合格となります。

※毎回の授業時間は、大変短くなっています。(その分、実践トレーニングに充ててもらいます)

2. ディスカッション課題について

第1回から第15回までのすべての回において、エアキャンパスへの発言課題があります。

各回の課題発言につき、4点が加算されます。

※4点×15回＝60点

3. 最終レポートについて

最終試験の課題提出は必須です。

未提出の場合は、自動的に不合格となります。

4. 1～3のまとめ

授業1～15回を視聴＋15回の発言課題(60点)＋最終レポート提出で、合格(C評価:60点)が保証されます。

5. 学習項目に対する評価

上記1～4の基礎点(60点)に、以下のことを考慮し、40点を満点として評価し、加算します。

1) 課題の提出日(推奨期限内の提出)及び発言内容(20点)

2) 最終レポートの内容(20点)

以上